

FUJITSU 統合業務ソリューション SUPER BENECAI お客様事例紹介 KOA株式会社



【本社】 長野県上伊那郡箕輪町
大字中箕輪14016 KOAパインパーク内
【創立】 1940年（昭和15年）3月10日
【設立】 1947年（昭和22年）5月24日
【資本金】 60億3300万円
【従業員数】 1,345名（2015年3月31日現在）

● お客様



財務グループ
マネージャー
福島 彰氏

財務グループ
小沼 健氏

導入の経緯についてお聞かせください。

SUPER BENECAI導入前は外部機関に計算を委託していました。当社を含めグループ全体で4社の計算を依頼しており、每期多額のコストが掛かっていました。また、計算の中身がブラックボックス化している点やシミュレーションへの対応に不安を抱えていました。

そんな時、ある会社からPBO（退職給付債務）の自社計算化について提案を受けました。当社としても、先ほど申し上げた問題の他にもIFRS対応も課題として認識し始めた頃でしたので、真剣に自社計算化を検討することになりました。

導入に必要なコスト、製品の操作性、監査への対応、サポート体制など多面的に検討した結果、既に連結会計パッケージでもお世話になっている貴社のSUPER BENECAIを採用することになりました。また、当社での導入後、製品もサポートも確かなものであることに確信が持てましたので、グループ会社3社でも導入を行いました。

他にも外部委託にデメリットはありましたか？

「外部委託では“対応できない”」

やはりタイムリーな計算が出来ない、という点でしょうか。当社は3月決算会社ですが、決算発表は4月20日で翌日がIRと早期開示をしております。そういった日程に対応するには、外部委託では日程面でもかなり厳しかったと記憶しております。外部委託の場合には、委託先への人事データの提出から計算結果の入手まで、通常でもかなり時間が掛かるのですが、人事データの提出が少しでも遅れると予定していた時期に計算結果が入手できないので、データの漏れや修正があった場合には対応が出来ませんでした。その点、今では自社内でタイムリーに対応できるので、データ作成に責任を負う人事部門が受けるプレッシャーは以前に比べかなり軽減されたはずで。

また、会計監査で数値分析を求められたことがあったのですが、外部委託では計算の中身が分からず、外部委託先の担当者に問い合わせても明確な回答をいただけずに困ったことがありました。

自社計算に切り替えて何かお困りになったことはありますか？

ここまで言うと少し言い過ぎかもしれませんが、「SUPER BENECAIを導入して失敗したな」と思っているユーザーはいないのではないのでしょうか？少なくとも当社グループでは、事前の期待を超えるパフォーマンスを発揮していますし、日々のサポートだけでなく退職金制度の見直しや会計基準改正等への対応にも大変満足しております。先日、グループ会社が退職金制度の変更を行った際、切羽詰まった状況の中、無理を聞いていただいたのですが、柔軟かつスピーディな対応で、「本当にそこまでしてくれるの？」と思わず聞き返してしまいました。退職金制度の変更については頻繁にあるわけではないので、なかなか自社内ではノウハウが蓄積できていません。他社の事例を踏まえたうえで、当社が取り得る選択肢や取るべき処理について提案いただき、導いてくれたのは助かりました。

自社計算というと今までアウトソースしていた業務を内部に抱えるようで手間暇が掛かるようなイメージがありましたが、人事データのエラーチェック機能がある分だけ、むしろ手間が減ったかもしれません。

日々のサポートについてはどういった点が便利だとお考えですか？

「心理面でも”質問しやすい”

当社のサポート担当の方が複数いて、いつ電話をしても当社の退職金制度を熟知した担当の方にスムーズにご対応いただけるのは助かります。やはり、質問の都度、当社の退職金制度の概要や置かれている状況等を一から説明するのは面倒ですし、質問すること自体が億劫になってしまうと思います。質問内容もシステムや会計処理等と幅広いのですが、しっかりとご対応いただいています。実は、サポートが担当制であるという点は製品を選定する際に重視した項目でした。やはりSUPER BENE CALにして良かったなとしみじみ感じています。

また、PBOは計算構造を理解するのが難しく、会計基準が改正されて増々、難しくなったように感じるのですが、いつもサポート担当の方に「すぐに分からないのは当然ですよ」と言っていただけるのは、質問する側としては非常に気が楽になりますね。サポートの体制だけでなく、心理面でも質問しやすいということはユーザーから見るとありがたいです。

監査においても、導入時に当社と監査法人そして貴社の三者協議で、以前の計算との差異や今後の計算方針等を確認し、疑問点や不明点をクリアにした状態で運用をスタートしたので特段の不安もなく、毎期の決算でも担当制のサポートのおかげでスムーズな対応ができています。

グループでの導入はいかがですか？

「グループ全体での導入”にメリットを強く感じた”

普段の計算は各子会社に任せていますが、必要に応じ、物理的に離れた環境であってもすぐに子会社の計算過程・結果をシステム上で再現して確認出来るのは助かります。

PBO計算というと、通常であればブラックボックス化されがちな分野であり、グループ会社内でもお互いの計算についてはよく分からないということがありがちだと思いますが、グループで管理できる点はSUPER BENE CALをグループ全体で導入したメリットだと強く感じております。



会計基準改正時の対応はいかがでしたか？

「無駄なく”将来の道しるべ”を示してくれる」

会計基準の改正時は、実際に改正されるかなり以前の段階から何度か貴社の勉強会に参加させていただきました。勉強会では、PBOの計算構造や基準に加わる新しい概念等の改正内容の他に、会社側がやるべきことを聞く事が出来たので大変有意義でした。

基準改正の影響額を試算した際には、当社サポート担当の方に何度か足を運んでいただいて、数値の動きを図とグラフを使って丁寧に説明していただきました。今回の改正時に限らず、私たちが何かしなければならぬ時に、無駄なく将来の道しるべを示してくれるのはありがたいです。

SUPER BENE CALに今後期待することをお聞かせください。

今は退職給付会計に関するソリューションを提供していただいておりますが、今後は他の会計領域でも当社を支えていただければと思います。これからも今と変わらないサポートをよろしくお願い致します。

※ SUPER BENE CALとは・・・

決算に必要な退職給付関連数値算定だけでなく、最大20年間の中長期予測機能や各種シミュレーション・分析機能を装備し、導入実績570社を超えるお客様にて決算数値算定及び経営管理ツールとしてご活用頂いている退職給付債務管理パッケージです。国内基準はもとよりIFRSにも対応しており、決算の他、予算管理・事業計画・キャッシュフロー予測・制度変更影響分析・人事管理など幅広い目的で活用可能です。担当制サポートにより通常のサポートのみならず監査対応も安心です。

サポート担当者



富士通Japan株式会社
共通ソリューション開発本部
第三ソリューション事業部
第三ソリューション部
花岡 裕美

SUPER BENE CAL導入から現在まで

【退職給付制度】
退職金、確定給付企業年金制度

【監査法人】
太陽有限責任監査法人



【SUPER BENE CAL対応経緯】

- 2011年 SUPER BENE CAL導入
- 2012年 グループ3社独立導入
 - ・真田KOA株式会社
 - ・興亜エレクトロニクス株式会社
 - ・鹿島興亜電工株式会社
- 2013年 会計基準改正対応試算
(KOA株式会社及びグループ3社対応)
- 2015年 退職金制度変更対応
(興亜エレクトロニクス株式会社)

お問い合わせ先

富士通Japan株式会社
共通ソリューション開発本部
第三ソリューション事業部
第三ソリューション部 退職給付会計チーム
E-mail : contact-benecal@cs.jp.fujitsu.com

ご案内担当